

アレルギー性 鼻炎の話



耳鼻咽喉科副部長
小川徹也

アレルギー性鼻炎とは

アレルギー性鼻炎とは、抗原と呼ばれる物質が鼻の粘膜でアレルギー反応を起こし、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状を起こす病気です。アレルギー性鼻炎の有病率は年々増加し、現代における国民病の1つと言われています。

アレルギー性鼻炎の病態は、基本的には気管支喘息と同様であると考えられます。急性型のアレ

ルギー反応が鼻の粘膜を中心に起こり、副交感神経が興奮することでくしゃみ、鼻水、鼻づまりが生じます。

抗原にはスギやヒノキ、ブタクサなどの花粉、ハウスダストやダニ、ペットの毛などがあります。

スギやヒノキ、ブタクサなどの花粉はそれぞれの季節に飛散し、季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）

を起こします。

一方ハウスダストやダニ、ペットの毛などは季節には関係なく部屋などに存在し、通年性アレルギー性鼻炎の原因となります。

アレルギー性鼻炎の検査は、鼻汁中のアレルギーの細胞である好酸球を調べたり、血液と抗原との反応を見るRAST検査などがあります。



アレルギー性鼻炎の予防、治療

予防

抗原が鼻の粘膜につかなければアレルギー反応は起こりません。マスクの着用、晴れて風の強い日は外出を控える、空気清浄機の使用などは予防となります。

薬物療法

肥満細胞から出るヒスタミンが症状を起こします。よって抗ヒスタミン薬は有用なアレルギー性鼻炎の薬となります。最近では眠気が少なく抗アレルギー効果が強い第



アレルギー性鼻炎に対する抗アレルギー剤

2世代の抗ヒスタミン薬などが使われます。また花粉飛散前に薬物療法を開始することで、症状を軽くする方法も試みられています。

手術療法

鼻の粘膜にレーザーを照射してアレルギーを起こす場を減らし、鼻粘膜のアレルギー反応を鈍くしようという治療法です。硬性内視鏡を使用し確実に焼灼でき、日帰り手術でも施行可能です。



鼻の粘膜：レーザーにて焼灼した後

免疫療法

抗原を少ない量からゆっくり増やして体内にいれ、アレルギーを起こりにくくする治療です。最近、舌下免疫療法が新しいアレルギー性鼻炎の治療法として認可されました。舌の裏に抗原の液を滴下し、最初の2週間で量を増やしていき、3週目からは同じ量の薬を毎日舌下投与し治療していきます。自宅での投与が可能です。今後の有用性が期待される治療法です。

当院では、アレルギー性鼻炎に関し最新の知見に基づき診断治療を行っています。アレルギー性鼻炎についてお聞きになりたい際はいつでも4階の耳鼻咽喉科外来にお問い合わせください。

